

昭和橋の歴史

この場所は、坂城地区と村上地区を結ぶ交流交通の要所として発達し、江戸時代には渡し場があり渡船がありましたが、地域住民の強い要望により国道側の3連が架設となり、その後災害復旧工事等により計9連の永久橋となりました。近年、老朽化が進み損傷が激しくなったため、橋梁長寿命化修繕計画による補修工事を行っています。

- 昭和 2年 (1927) 坂城町と村上村で更埴南道路組合設立
- 昭和 3年 (1928) 木橋(杭打橋)を架け昭和橋と名付けた(馬車も通れたが、板橋だった)
- 昭和 4年 (1929) 室賀村が加わり、坂城室賀線道路組合設立
- 昭和 12年 (1937) 坂城側から3連鉄筋コンクリートローゼ橋とし、その先を木橋として架設された
- 昭和 22年 (1947) 県道上室賀坂城停車場線になる
- 昭和 24年 (1949) キティ台風で木橋部が流出
- 昭和 25年 (1950) 災害復旧工事として中央部6連に着工
- 昭和 27年 (1952) 全9連として竣工、左岸側は河川敷から木橋を架けて使用
- 昭和 39年 (1964) 国道19号生坂村犀川に架かっていたゲルバーガーター橋(S6製作鉄橋)を加工して架設し、昭和橋が永久橋となる(総経費約2,600万円)
- 昭和 62年 (1987) 幅員の狭い(4.5m)昭和橋が、交通量の増加に伴いその上流側に坂城大橋が架設される
- 平成 14年 (2002) 土木遺産に昭和橋ほか4橋が認定「中島武設計のRCローゼ桁群」
- 平成 29年 (2017) 橋梁長寿命化修繕計画による補修工事～令和7年予定

日本土木学会選奨 「土木遺産」

平成12年設立 近代土木遺産(幕末～昭和20年)を対象に、技術(風景)・意匠(デザイン)・系譜(地域性)など評価し認定する。

設立の趣旨

- 社会に対するアピール
土木遺産の文化的価値を評価し、社会への理解等を深める
- 土木技術者に対するアピール
かつての優れた土木構造物から、将来の創造性に溢れた文化財創出へ
- まちづくりへの活用
「社会的資産」と認定された歴史的土木施設が増えれば、それらを活かしたまちづくりにつなげられる
- 持続可能な土木遺産
貴重な土木遺産の保存



授与された銘板

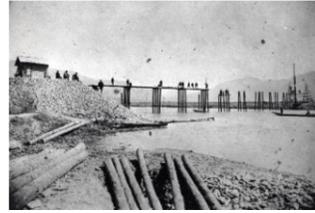
鉄筋コンクリートローゼ橋の生まれた背景

昭和初期、日本は戦争の影響もあり鋼材が不足していました。昭和8年に長野県の道路技師となった中島武氏が鋼材を使わずに長大橋を架けるために設計した、世界初の技術です。戦後になり鋼材が自由に手に入ると、鋼橋が主流となりました。

【中島武設計 鉄筋コンクリートローゼ桁群】

- 戦前架設の5橋が2002年に土木遺産として認定
- ・昭和橋(坂城町/千曲川)
 - ・大手橋(木曾町/木曾川)
 - ・姫川橋(小谷村/姫川)
 - ・親沢橋(小谷村/親沢川)
 - ・栄橋(佐久穂町/千曲川)

昭和3年
木橋(杭打橋)
総工費
1万円強
長野県負担
45%



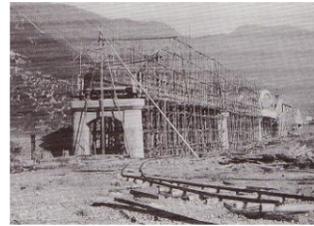
橋梁長寿命化修繕計画により補修工事を実施中



(写真上-平成30年度完成 鋼製ゲルバーガーター橋、上流側左岸橋台より下-上流側A2橋台より)



昭和26年
現RCローゼ橋
総工費
約2,000万円強



橋梁長寿命化修繕計画により補修工事を実施中



(写真上-令和3年度完成、RCローゼ橋、P4-P5間主構補修下-令和3年度完成RCローゼ橋、P3-P5間主構補修)



全主構の完成は令和7年予定)

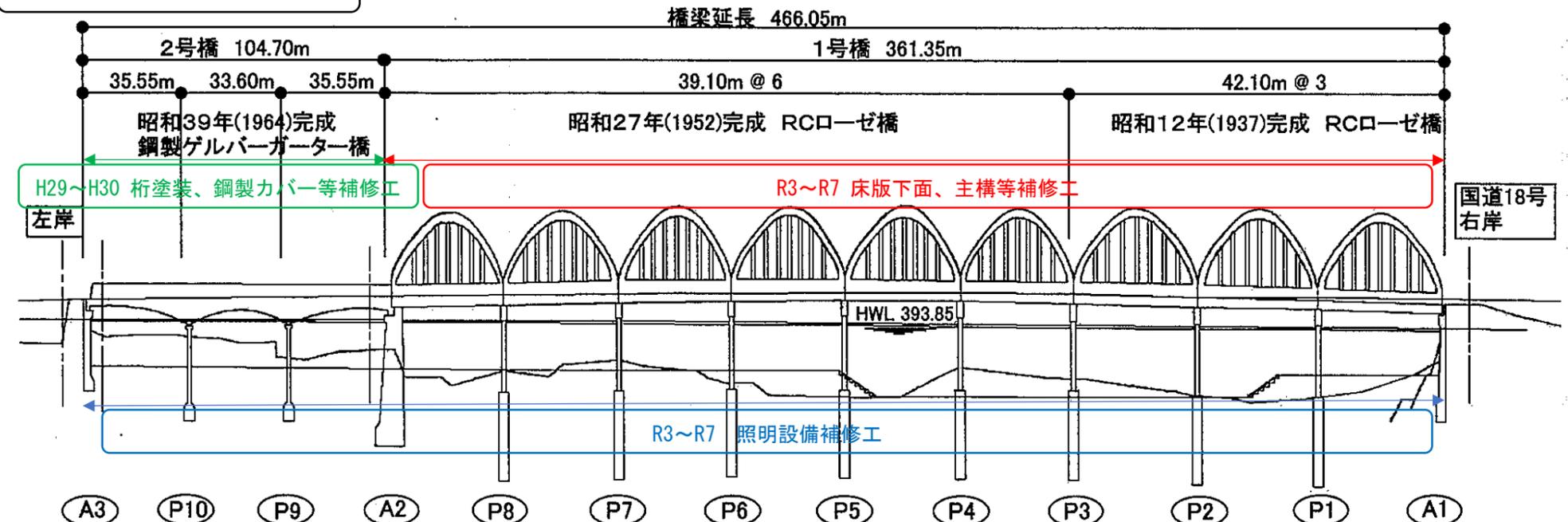
昭和橋の概要

- 土地の所在
埴科郡坂城町大字上五明字伊勢宮1099番地の3地先から埴科郡坂城町大字坂城字中川原10263番地の4地先まで
- 延長、幅員
橋梁延長466.05m 幅員4.5m
- 工作物の構造
1号橋 橋長 361.35m 鉄筋コンクリートローゼ橋
有効幅員 4.5m 設計荷重 20t
橋台 2基 鉄筋コンクリート
橋脚 8基 鉄筋コンクリート
支間長 42.1m 3連、39.1m 6連
2号橋 橋長 104.7m ゲルバーガーター橋
有効幅員 4.5m 設計荷重 20t
橋台 1基 鉄筋コンクリート
橋脚 2基 鉄筋コンクリート
支間長 35.55m 2連、33.6m 1連
- 架設年
国道側3連 昭和12年(1937年)鉄筋コンクリートローゼ橋
中央部6連 昭和27年(1952年)鉄筋コンクリートローゼ橋
村上側3連 昭和39年(1964年)鋼製ゲルバーガーター橋

漫画「釣りキチ三平」などにたびたび登場した昭和橋

漫画家の矢口高雄さんは、1973年に週刊少年マガジン(講談社)で「釣りキチ三平」の連載を始め、日本中に釣りブームを巻き起こしました。昭和橋の釣りポイントでも釣果を上げ、「第二の故郷」とのことで、愛好会の「三平クラブ」もあり、クラブ主催のアユ釣り大会が昭和橋付近で開催されるなど、矢口先生にも楽しんでいただきました。ちなみに、びんぐし湯さん館のロゴと暖簾は、矢口高雄さんのデザインです。

昭和橋 側面図(ポンチ絵)



鋼製ゲルバーガーター橋は、応力やたわみを小さくするためヒンジを設け、鋼板等を組み合わせた桁(ガーター)からなる鉄橋です。

鉄筋コンクリートローゼ橋は、路面部分の補剛桁とアーチ部材の双方で曲げモーメントを分担する補剛アーチ橋です。